

高退協ニュース



新年のごあいさつ

高退協会長岡崎清恵

新年お目出度うございます。昨年、高退協は会員が40名を超す大きな組織となりました。これは一九七六年五月の会結成時の会員30名の14倍以上の組織に発展したことを示しています。

同時に、この間に115名の物故者があり、退職者の組織の性質から当然のことですが、お互いに健康維持に努力することの大切さを教えてくれています。お互いに健康に充分留意しましょう。「長生きは芸術の二つだ」と言われています。長生きをして社会に貢献しましょう。すでに米寿を祝った十数名の会員に続きます。

さて、私たちは高退協結成の趣旨に基づき様々な行事を成功させてきました。また、平和を守り民主教育を発展させるための諸々の取り組みを展開してきました。

2004年度の重要な課題としては、

- ①憲法改悪の阻止
 - ②教育基本法改悪の阻止
 - ③年金改悪の阻止
 - ④消費税増税の阻止など
- が考えられます。これらの課題を達成するため、県内外の志を

同じくする組織や仲間と一層連携し、団結していかなくてはなりません。

事務局員一同、力を合わせて組織の発展と、運動の充実をはかりたいと念願しています。ご協力をお願いします。

会員の皆様のご多幸とご健勝を心から祈念し新年のごあいさつと致します。

「望年会・芸能交流会」

作品展示会開催

恒例の高退協「望年会・芸能交流会・作品展示会」が、12月9日高知城ホールで開かれました。参加者は49名でした。高教祖から橋元陽一委員長が参加されました。

全員の合唱の後、岡崎清恵会長の開会挨拶、池上寿雄さんの音頭で乾杯し祝宴にはいりました。二部の芸能交流会では、手品・小唄・舞踊劇・浪曲・歌・踊りと多様な芸が十数名の人たちによって披露され、歓声や笑いの中で、大きな拍手につつまれました。また、各テーブルでは、久しぶりの顔を求めて、杯を交えながらの談笑の輪ができていました。

作品展では、16名の会員が出品され、絵画・書幅・陶芸・工芸・手芸・写真など、計36点の芸術品が展示され、文化が漂う望年会となりました。なお、今回は高知城ホール一階ロビーで、引き続き12月16日まで展示しました。

高知高退協
事務局
2004.1.1
No126

活動日誌

- 【11月】
- 5日・6日 高退協親睦ツアー（岡山・兵庫方面）
- 7日・8日 県教組教研集会（山田小）
- 10日11日 全退教四国ブロック第12回交流会（徳島県池田町）
- 12日 事務局会
- 13日 機関誌「こうたいきよ」24号編集委員会 広告取り
- 14日 機関誌印刷依頼
- 22日 高知県高齢者大会（ソール）
- 25日 山原記念館準備会
- 【12月】
- 2日 機関誌の初校済み
- 8日 12・8記念集会 再校済み
- 9日 望年会・芸能発表会・作品展
- 10日 幡多支部望年会
- 15日 山原記念館準備会
- 16日 展示物の撤収
- 22日 機関紙・誌の配達・発送

第12回四国交流会

成功する

第12回全退教四国ブロック交流会は11月10日11日の一泊二日の日程で徳島県池田町の「かんぼの宿阿波池田」に、82名が参加して盛大に開催されました。

参加状況は、香川11名、香川高6名、愛媛22名、高知21名、高知高4名、徳島18名でした。高退協からは、岡崎、中川、和田、小澤の事務局員が参加しました。

総選挙で、革新政党が後退しただけに心配されましたが、参加者は元気一杯でした。

「仲間とともに豊かな生き方を」をテーマに掲げ、全体会、分散会、懇親会、記念講演、観光と全日程をスムーズに消化して終了しました。来年度は、高知が当番県となっています。

単声老語

衆議院選挙を終わって、来るべきものが来たとの思いに駆られました。

小選挙区制が導入された時点で、少数政党の未来は予測されていきました。たまたま、小沢一郎の失敗や、菅直人の失敗に助けられて、今日まで生きながらえてきていました。

元々、小選挙区制は、ヨーロッパの政権政党が政権維持のために編み出した選挙制度です。またまた、政治不信を増幅させました。政治不信の根源は、選挙が終われば、何をしてよい。白紙委任を受けたかのような勝手な振る舞い舞いです。

保守新党の自民党合流は許されません。選挙後の政党移動を禁止すべきです。問うならば選挙前に移動して聞え。これが選挙民に対する最低の責務です。

政治家のこんな勝手放題を許している限り政治不信は募り募りです。

それは投票率の低下にはつきりと現れています。

三分の一以上の選挙民が棄権するような政治情勢を政治家は恥ずべきです。

その根源には、政党助成金制度。政党が自ら努力することなしに、われわれの税金から、政党に金がつぎ込まれる制度をなくさない限り、日本に民主主義は育たない。

また、政党に対する、企業、団体からの献金も禁止すべきです。見返りを求めない企業も団体もありません。見返りを求めるからこそ、多額の献金をするのです。

この選挙制度や、政治制度の改革なしに、日本の民主主義は育たず、清新を標榜する政党が組織の自浄能力を失っては、民衆に見限られるのは当然です。一度失った信頼を取り返すのには、何十倍の努力と労力を要します。

土木、建設業者の代理戦争に手を貸しだしては未来はありません。政治のプロなら先が見えなくては世も末です。

(森下芳文)

高知県高等学校退職教職員協議会
高知市丸ノ内2丁目11-10
教育会館内高教組気付
TEL 088182216822
0165012111893

寒東寺残日録

坪井 幹之
満願成就

十一月十四日、最終回の「歩き遍路」に出発した。七十六番金倉寺から結願寺大窪寺までの十三の札所のもと、従来から慣わしとなっていた「お札詣り」として一番霊山寺まで廻った。六泊七日、一五〇軒ほどの道程であるが、五カ所の山場があつて、思ったより難業であつた。

初日は朝の特急で普通寺へ。この駅から歩き始めた。県道を辿って普通寺の金倉、多度津の道隆、宇多津の郷照と三寺を廻って、その夜は坂出の国民宿舎「瀬戸内荘」の温泉で疲れを癒した。

二日目は早朝、朝食抜きで出発、天皇寺から国分寺へ。ここから五色台への登りとなる。急坂の難所「へんろころがし」を経て、三寺へのコースの分岐「十九丁」(標高四百米)に着く。ここから古刹白峰寺へ往復。アップダウンの打ち続く山道で汗を流す。

私の健康法

湯浅秀夫

明けて〇四年の一月早々、私は八十二歳になる。先ずは元氣と、自分でも思っています。その健康法の一つは、毎朝食前除く・雨天)に平均約二時間の散歩の継続です。それは、わが家(高知市瀬戸南町)を起点にして、御景瀬・浦戸・桂浜・種崎・横浜・春野町の唐音・諸木・西分などの往復コースを、当日の自らの都合・気分・天候に応じて選びます。これら道すがら愛犬連れ、散歩の人など、多くの方々との出会いや路傍に咲くさまざまな花や四季の風景の彩の変化を愛でるのも楽しみです。そうして私の散歩の最大のメリットは、風邪もあまり罹らず、快食・快眠・快便で日々を送ることが出来ることでしょうか。その次は、体や頭を使って可能な限りに動き回ることです。例えば、被爆者の妻を援助するために、家事の手伝い、家内外の掃除、買い物、ごみ捨てなど。また毎日の『高知新聞』『赤旗』の熟読や多方面にわたる読書を中心がけています。そして、高退協の会合や催しへの出席、港南革新懇や日本共産党後援会の活

「みち草」なる山上の食堂でビールを飲みながら、この日の宿泊について相談、結局国民休暇村「讚岐五色台」を紹介される。迎えの車で着いた所は遍路の身にはもったいない一流のホテルであつた。これも仏恩と思つて、夕食では珍味をワインで頂く。三日目、バイキングの朝食後、車で昨日の食堂へ。根香寺を参拝、五色台の長い道を降り、讚岐平野に錯綜する旧へんろ道を尋ね尋ねてやっと一宮寺に到達。ここから一直線の国道を歩いて栗林公園へ、紹介されたビジネスホテル「高松No.1」に泊まる。屋上の露天風呂で入浴。

老眼鏡



動に参加して、多くの人々と交流して、語り合える喜びを持つことも、また私の健康維持の助けになつていたのでしよう。『蝉しぐれ』(藤沢周平作) 坪井さんの呼びかけで「読書会」ができて、もう10年以上に成る。二ヶ月に一回の集まりだったが、チリも積もって読んだ本は、僅に10冊を超えた。始めはボケ防止の軽い気持ちだったが、今では「なくてはならないもの」になつた。たがいに推せんし合つて読む本を決め、次の会で感想を出し合う。四方山話に花を咲かせる。もちろん雑学だが、政治、経済、文化各方面に広く浅く論じ合つてきた。何か言わねばならぬので、自然と心をこめて読まざるを得ない。そんな習慣も身についた。若いときに比べたら、読む力は半減以下。でも読めば何かしら残る。今まで知らなかったことを知ることができた喜びは又こたえられない。さて次は「蝉しぐれ」(文春文庫)を取り上げる。どんな話が聞けるのか楽しみである。そして、忘年会をやることにしている。(浜田)

る道を下る。次の志度寺までは「四国の道」をのんびりと歩く。屋敷到着。伝説で有名な「海女の墓」も見学、早々と予約済みの老舗「いしや」に入る。五日目、志度町から南進、古い町並みにある長尾寺へ。札所はあと一つ。前山ダムより花折峠を越え、多和小学校より国道を通過して大窪寺に入る。本堂と大師堂で読経、大願成就である。願みれば、九回の「区切り打ち」で、十五年入カ月日の慶賀である。山門に映える紅葉は見事であつた。この夜は、門前の民宿「八十七窪」に泊まる。六日目、「お札詣り」に出発。先ずは国道一七七号線を辿って東かがわ市の引田にある「翼山温泉」まで歩く。最終日、引田より一ノ線折野まで、川筋から卯辰の峠を越えて霊山寺へ。「柿たわわ」足も軽やか、弘法の道徳島駅で、満願の祝杯を上げて、無事帰高。

短歌

憲法九条

叶岡淑子

教室に師の読み上ぐる九条を五十数年忘れざりしに
わだつみの怨嗟の声のこだまかと二〇〇三年木枯らしを聴く
ボール遊びの子らを銃撃せし者を扶くといふか我が国は

古いノートから

榊原忠彦

溪(た)の上の藁(わら)の葺(ふ)屋も暮れそめてひとしほひびくたにがはのおと
(昭和二十二年八月猪野々なる溪鬼在泊歌抄)
溪に棲む鬼と名づけし歌びとのさすらいの庵(いほ)はありし日のこと
背かれし妻への憂ひ鬼となり土佐にのがれし貴人(きいじん)あはれ

千種さん近く

山本晶子

賀状をば取り出し見れば旧友の元氣なる筆跡たしかにありし
石鏝(いしげ)にて脊髄損傷せし千種さん四十年の車椅子の生
行政に働きかけて身障者の幸せのためひたすら生きし

会費納入のお願い

二〇〇三年も終わりとになりました。本年度の会費をまだ納めてない方はできるだけ早くお納めください。今度の高退協ニュース送付時振替用紙が同封されている方が未納です。よろしくお願い致します。

入院お見舞い

次の方に長期入院又は長期自宅療養につき、見舞金を贈呈しました。

西岡源之さん、吉岡能子さん、鎌倉隆三さん、山原健一(郎)さん、浜田数義さん、中沢尚敏さん。

会計 西田令子

第37回 職美展

2004年2月(火)～
2月(日)まで
搬入日 2月2日(月) 午前1時～12時
場所 高知市文化プラザ「かるほ」7階第4
出品 500円(点数にかかわらず)

川柳 小澤 幸泉

雑樹集 ③

繋ぐ・遊ぶ・揺らす！

悠々自適時々コップの水がゆれ
遊ばれた小指を独りもてあそぶ
繋ぎ目にふと愛情を気づかされ
笹舟のロマンが遠く消えていた
逝く時と生まれたときの白日夢

